畜大同窓会便り

第１号　平成６(1994)年６月

帯広市稲田町　帯広畜産大学内　帯広畜産大学同窓会事務局発行

畜大同窓会便りの発刊にあたって

同窓会長　岸上正治（獣医S18卒）

同窓会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年１０月に微力ながら同窓会の会長をお引き受け致しましてから、役員一同協議し、前三浦弘之会長（酪農S30卒）の路線を継承し、本学創立６０周年に向けて同窓会組織の強化を図るべく努力致しております。当面の課題と致しまして，第１に経済基盤の確立を図る事、第２に出来るだけ正確な名簿を毎年発行する事、そして第３に全国各地に支部会を結成していただき組織を強化する事，第４に同窓会と会員相互の連絡を密にするために同窓会便りを毎年発行する事，に取り組んでおります。新入生から同窓会に賛助金を頂戴することで経済基盤の確立を図っておりますし、名簿は昨年度の名簿作成に当たり工藤賢資先生（酪農S29卒）のご尽力で大々的な改善が行われ、着々と同窓会の基盤の強化が進行しています。支部会がすでにある関東と九州を除いて各県の長老格の会員に支部会結成の依頼状を出しました。そして，第４を実現するためにこの同窓会便りを発刊することにした次第です。この第１号は目標とはほど遠い物ですが，年々充実した機関誌に発展させてまいるつもりでございます。皆様のご支援とご指導をお願い致します。

第１号ですので、大学の近況を皆様にお知らせすべく、学長先生はじめ大学の諸先生に原稿を年度始めの多忙時に厚かましくお願い致しました。ここをお借り致しましてお詫びとを深謝申し上げます。

畜大の近況

学長　坂村貞雄

同窓会と言えば「同じ学校の出身者が集まった組織、またその会合」であって、本会の会則にも「会員相互の親睦と本学の発展を期する」事が目的として謳われています。私自身の経験からも様々な会がありますが、同窓会ほど気楽で利害や思惑抜きで付き合え、日頃のストレスを解消し、元気を回復するのに効果的なものは他にないと思っております。時に、話題の中心が母校にまつわる思い出であったり近況であることが多く、そんな訳で同窓会での話のタネにしていただけそうな大学の近況についてスケッチ風に書いてみたいと思います。

大学院関係では４月より岩手大学大学院連合農学研究科に参加して１０名が入学を果たし、先発の岐阜大学大学院連合獣医学研究科と共に、全ての学科が博士課程の教育研究を行えるようになり、また修士課程は従来の６専攻を学部学科名と同じ３専攻に改め、社会人の修士課程進学の道を開き、５名が入学致しました。一方、学部のカリキュラムが大幅に変更され、一般教育と専門教育の区別が無くなり、卒業に必要な単位数を減らし留め置き制度を廃止し、教育の質的向上を目指しております。

１８歳人口の減少期を迎え、入学志望者の減少が心配されましたが、際立った変化もなく、今年度も意欲的な学生を迎えることが出来ました。

ところで、自然に恵まれたキャンパス風景はあまり変わっておりませんが、原虫病分子免疫センターの新設、武道場の改築、情報処理センターの増築、視聴覚教室の改修整備、大動物Ｘ線診療車の更新、生協前広場の整備などの質的改善充実が急速に進みました。今秋迄には食堂・店舗の新築、学部および教養棟にそれぞれエレベーターが設置されます。

これからの技術革新と高齢化社会を生きるために、もう一度畜大で勉強してみたい気持ちにさせるような風格のある大学を目指して努めて参りますので、これまで同様みなさまのご支援ご指導をお願い致しますと共に同窓生各位のご活躍を祈念します。

学科などの紹介

獣医学科

本学科は本学創立以来現在まで同一の名称であるが、他学科は時代の趨勢によりその時々でより適切な学科名で講座編成がなされてきた。しかし、その獣医学科も従来の一般教育と専門教育の区別を廃止し、６年一貫教育を目指す新カリキュラムが導入された。この新カリキュラムの実施にあたり、解剖・生理・病理・薬理・内科・外科・繁殖・微生物・公衆衛生・放射線の１０講座、家畜病院および原虫病分子免疫研究センターの各教官がそれぞれの得意とする専門により、講座とは別に教育のための動物形態学、動物機能学、生体防御寄生体学、臨床獣医学、先端動物開発科学の５の講座連合を組織し、獣医専門の授業科目を担当する事となった。即ち、１教科目を講座の枠を外れて複数の教官および学外の非常勤講師がそれぞれを講義・実習する事となった。

獣医学科は平成２年より岐阜大学を設置大学として帯広、岩手、東京農工大学を参加大学とする岐阜大学大学院連合獣医学研究科（４年制の博士課程、獣医学科は６年制なので修士課程はない）に参加し、留学生を含む多くの学生が各講座に所属し研究に励んでおり、今年３月には初めて２人の獣医学博士が誕生した。

今年は４０名の新入生を迎えたが、うち１６人が女性で、平成４年の２３人に比べては少ないが、ここ数年女性入学者の割合が年々高くなり、この傾向は全国の獣医系大学に共通している。その結果、卒業後に小動物病院の開業および開業見習いに進む者が多く、最近５年間の全国総計で女性の３５％強がここに就職している。これに反して農業共済を主体とした畜産関連への就職者はほとんどが男性で、その数も毎年１０％弱と低迷している。本学は開業見習いと畜産関連にそれぞれ毎年２０％前後を占め本学の特徴を反映している。しかし、獣医学は多様化、高度化そして国際化が要求されており、本学の獣医教育の在り方について、将来の社会的ニーズに応えて行くためにも、広範な視野から再検討すべき時期であると痛感している。同窓生各位のますますのご活躍を祈念しますと共に母校へのご支援をお願い致します。（学科長　後藤　仁教授　獣医S30卒）

畜産管理学科

学科の近況を同窓会員の方々に知って頂くという趣旨で文を考えると、畜大創立後53年、私の畜大歴26年の中での学科の変貌が頭に浮かびます。26年前酪農学科を構成していた10研究室は昭和47年から54年にかけてそれぞれ畜産経営学科，畜産環境学科，草地学科および家畜生産科学科の構成員となり、更にこれらは，平成２年に現在の畜産管理学科，生物資源化学科および畜産環境科学科の構成員となりました。即ち、酪農は土草牛の連鎖だなどと言っていたかつての研究室が今は獣医学科を除く全学科に分散しているのです。

この学科改組までは，１講座１研究室でしたが、現在の１講座はそれまでの２･３研究室で構成されています。このおかげで、学内から昔の研究室名が全て消え、当初我々教職員学生にも少なからず混乱がおきました。さらに同年10月から寄付講座として総合馬学講座が設置され、現在の畜産管理学科は５講座になりました。即ち、家畜育種増殖学，家畜生産管理学，畜産経営情報学，畜産資源経済学および総合馬学です。今ようやく研究室の名前が覚えられたという感じです。そしてこの四月から、新たに岩手連合大学院農学研究科に参加することになり、博士課程の学生が６名在籍しています。

このような学科構成と講座体制になった背景には、地球上で砂漠化と飢餓にあえいでいる地域や飽食の時代を謳歌している部分がある現在の世界情勢の下で、急速に発達して行く先端技術などを畜産に取り入れ、地球環境を維持しながら持続的な農業生産を行いたいという時代の要求があります。こうした時代背景と環境に畜産学教育と研究体制が臨機応変に対応できるようにということで今日に到っています。大学も生物と同様にその生きている時代や生息地の環境に適応するための進化続けてきました。時代の流れと環境の変化によっては、更に変態するかも知れません。（学科長　左　久教授）

生物資源化学科

本学科は、従来の農産化学科・家畜生産科学科・畜産環境学科の３学科から関係講座を組み合わせ平成２年４月に発足しました。発足当初は、農産科学科の食品化学（伊藤、大西、小池、敬称略）、応用生物化学（佐藤、増田）および林産化学（奥山、鍋田、河合）の３講座と畜産環境学科の環境保全学講座（根岸、中野、福島）とで応用生物化学（大）講座を編成し、更に農産化学科の製造機械学講座（中川、石橋、弘中）、家畜生産科学科の畜肉保蔵学講座（三浦、三上，関川）、酪農化学講座（有賀、島崎、浦島）の３講座で生物資源利用学（大）講座を編成しました。つまり生物資源化学科は従来の７講座を改編して２大講座からなる新学科となりました。その後、根岸先生を停年退官で、河合・島崎両先生を割愛でお送りしましたが、応用生物化学講座に吾妻、田崎、大和田先生を、生物資源化学講座に関川先生を迎え一層の充実が図られています。

本学科は、獣医学科を除く他の６学科の改組の中で誕生致しましたが、その教育基本方針は、化学、生化学、生物工学、生物環境学およびバイオサイエンスの立場から乳・肉等の畜産資源の他、農産物および微生物由来の生物資源の化学的・物理化学的性質を明らかにし、これらの加工・利用・貯蔵技術の開発、生物資源の新たな開発および非利用生物資源の有効利用等についての教育・研究を行う事、動物・植物および微生物などの生命現象とそれらの生産物の構造や機能を解明し利用するための教育・研究を行う事にあります。

同窓のみなさまには卒業生の進路について格段のご配慮・ご協力をお願い申し上げます。（学科長　有賀秀子教授　酪農S31卒）

畜産環境科学科

平成６年３月、畜産環境科学科から初めて７６人の卒業生を世に送り出した。同窓生の皆さんには畜産環境学科、草地学科、農業工学科合わせて７６人の卒業生が出たと言った方が分かりやすいかも知れない。

平成２年４月に学科の改組が実施され、４学科１課程になった。上記の３学科を統合して一つの学科にしたのである。ただし、畜産環境学科の環境保全学講座は新学科の生物資源化学科所属になった。また、学科の改組と同時に大講座制に変わった。畜産環境学・環境植物学・野生動物管理学の３講座を合併して生態系保護学講座、草地生産学・飼料作物学の２講座を合併して飼料作物科学講座、草地生態学・草地利用学の２講座を合併して草地学講座、環境土壌学・開発土木工学の２講座を合併して土地資源利用学講座、および農業動力学・農業作業機械学・畜産機械学の３講座を合併して草地畜産機械学講座になった。合計５の大講座で構成され教官数３５人、学部入学定員９８人、大学院入学定員２４人の学内一番の大所帯の学科が誕生したのである。

学科と講座の名称は変わったが、教官の教育・研究に大きな変化は無い。従来の小講座は研究者グループとして研究室の名称を引き続き使用しているのが実態である。本学科には多種多様な専門教育分野があるため、学生を生物系５８人、土地資源系１６人、農業機械系２４人として分属させ、各系の専門分野を広くかつ深く学ばせるカリキュラムに沿って教育している。

畜産環境科学科の名前は学内外にようやく馴染み定着したところである。教官陣も講座内あるいは講座間の連携を強めつつあるところであり、同窓生の皆さんには本学科の発展を期待していただきたい。吉田則人および源馬琢磨名誉教授はそれぞれ帯広市と浜松市に居を構え悠々自適の生活をしておられるが、両先生が学科の改組と新学科の運営に尽くされた功績は大きく、この場を借りて感謝したい。（学科長　高畑英彦教授）

教養課程

最近の様子をご報告致します。平成４年６月末日をもって永年に亘って本学の英語教育・国際交流の諸分野で尽力いただいたマービン・ミラー先生が退官され、本学から感謝状が贈られました。後任として米国イリノイ大学からマリオン・フリーバス先生が着任になり活躍されております。平成５年３月末日にはドイツ語の梅根教授と英語の伏見教授が、平成６年３月末日には文学の千葉教授が停年退官され、それぞれ本学の名誉教授の称号が授与されました。梅根教授の後任として今井晋哉講師がドイツ語と近現代史を担当され、伏見教授の後任として石川百合講師が英語を担当されております。千葉教授の後任は現在選考中です。

さらに、本学の教養課程が大改革されました。学部一貫教育が理念として叫ばれるだけでなく、制度として実現し、これによる教育が今年度からスタート致しました。教育課程の前半は導入科目と学部基礎科目（自然科学、社会科学、国際比較、社会教育、情報処理の６科目群）からなっており、教養課程に所属する教官のみならず、学内の全学科の教官もこれらの教科を担当され、意欲的に教育に取り組んでおられます。現在は、全学の協力を得ながら教養課程の組織をどのように脱構築し、再構築する事で帯広畜産大学の発展に寄与出来るのかを真剣に考える事が我々の課題になっております。

同窓生各位の益々のご活躍を念じております。　（教養課程主任　中原淳一教授）

別科

紙面の都合で極ごく簡単に別科の近況を紹介します。昭和35年に設置された別科は35期生29名をこの4月に迎えました。古い修了生の方は入学者が当時より多いとお思いでしょうが、これは昭和52年度より定員が30名になったためです。平成6年3月までに33回、計759人の修了生を社会に送りだしています。過去10年間の修了生277人の進路は就農が195人と70％を占め、別科の特性をよく表わしています。

昭和50年3月に竣工したいわゆる別科センターと呼ばれている別科実験実習室（鉄筋コンクリート造り平屋建140m^2）は、定員が増えたこともあって、平成元年3月に増築し延べ床面積は234m^{2}になりました。また、本別科センタに昭和60年10月にパソコン２セットが導入され、学生達の自由研究等に使われています。最近は農業経営においてもコンピューターの容量を借りて効率、利潤、品質、アメニティの追求がなされていますが、別科教育においても「農業情報処理演習」が教科にとり入れられ、又実習、演習の教科にコンピューター教育が導入されています。更に、「特別演習」という、いわゆる「卒業論文」に相当する科目を設け、現在の農業経営上の諸問題の中からテーマを選び、実験、研究、調査、討論、発表を行い論文にまとめています。

別科専任教官は、小西峰夫先生から上村俊一先生に変わり、そして昭和53年10月からは熊瀬登先生が担当されています。別科修了生の同窓会には「黎明会」がありますが、あまり活動していないようです。筆者は、本紙面を借りて別科同窓生諸兄に次のことをお願い致します。即ち、取りあえず同窓会事務局を熊瀬先生の研究室（内線444、Fax 0155-48-4744）として、同窓生の諸兄は事務局と連絡をとってほしいと云うことです。同窓会「黎明会」の会合を定期的に開催出来るようにしたいものです。同窓生諸兄のレスポンスをお待ち致しております。本紙は、名が示すように、「お便り」です。「お便り」は、一方通行にならないようにしたいものです。（別科主任　谷口哲司教授）

支部会通信

平成６年度関東同窓会通常総会の報告

関東同窓会幹事長　各務俊彦（酪農S35卒）

あの心の洗われる美しい桜も散り、当地は蒸せかえる新緑に包まれる候となりましたが、学長ははじめ諸先生方、そして同窓生の皆様にはお元気でしょうか。

去る４月１日、総会を九段に近いホテルエドモントに於いて開催致しました。来賓の鈴木直義，三浦弘之，佐藤邦忠，三上正幸の４教授を迎え，約７０名の会員がまだ残雪の中にある母校に遠く思いを馳せ、和気藹々の内に杯を交わしながら旧交を温める事が出来ました。当会は昭和１８年卒の諸先輩から平成４年卒までの約1,100名を会員とし、毎年この時期に母校の先生方をお迎えし総会を行っております。総会では鈴木一郎会長（農学S25卒）の挨拶の後、役員改選により新会長に亀谷勉氏（獣医S25卒、元畜大教授）が選出されました。厚生省乳肉衛生課長に今春就任された森田邦雄氏（獣医S41卒）が「国際比較による乳肉衛生」について講演され、続いて懇親会が行われました。亀谷新会長から若手会員の出席を増やしたい旨述べられた後、坂村学長の祝辞を来賓で畜大同窓会副会長の佐藤邦忠教授より代読いただき、母校の最近の充実ぶりが披露された。宮崎日出夫氏（獣医S18卒）の乾杯で宴が始まり、出席者には平成６年版関東同窓会名簿が配布されました。

卒後５１年の大先輩も、社会人になって間の無い新会員も語り尽くせぬ母校の思い出に浸りながら瞬く間に二時間半を先生方と共に楽しむ事が出来ました。

末筆ながら、学長はじめ諸先生方並びに同窓の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。（平成６年４月２２日記）

佐賀県同窓会の近況

森田満雄（獣医S49卒）

畜大を卒業して早２０年が過ぎ，遠い北国での青春時代の４年間を懐かしく思い出す今日この頃です。

佐賀県には二期生の小野先輩を初めとして現在８名の同窓生がおり，同窓会組織としてはありませんが，九州支部の構成員として年に一度の支部総会に出席することと，数年に一度県内の集まりをもっております。以前から年に一度の定期的な集まりを持とうとの声があり，本年中には何とか実現すべく計画中です。

昨年１２月８日，佐賀市で大学の寮歌などを佐賀県民に披露し，また大学相互のつながりを持とうと，北大同窓会が音頭取りをして「第１回佐賀県青春寮歌祭」が開催されました。北大同窓会から出場依頼がありました時，少人数を理由に断ろうかと思いましたが，５名が出ても良いと言う事になりましたので出場致しました。実際は一人が急用でダメになり，中原（獣医S39卒），森田（獣医S49卒），佐久間（環境S54卒），江頭（獣医院S59修）の４名が出場しました。昔，碧雲寮で夜遅く起こされ歌わされた歌ですが，今では何か郷愁を憶える「畜大逍遥歌」を披露し，畜大の紹介と自慢話を致しました。出場１５大学中最小の大学で，参加人員も少なく他校の迫力に圧倒されがちでしたが，何とか持ちこたえたと思っております。練習も会場の外で一度しただけの即興でしたし，北大に続いて２番目の出場で緊張の限りでしたが，何とか歌い終えた時には盛大な拍手をいただけました。

３時間足らずの集いでしたが，全国の大学の中で母校畜大をアピール出来たものと自負しております。もちろん，終了後佐賀の町へ繰り出し，昔話に花が咲いたことは言うまでもありません。

（佐賀県の寮歌祭に出たと森田君から年賀状に書いてありましたので，事務局から頼み込んで書いていただきました。多謝多謝！次号からは投稿をお持ちしております。事務局）

支部会結成状況と役員名

ブラジル支部　会長：浅井　澄，
Dr. Kiyoshi Asai, Rua Mennucci No 36,
Vila Pq Jabaquara - Sao Paulo
BRAZIL　CEP 0434-050

札幌支部　会長：市岡英二，事務局長：竹縄　馨

釧路支部　会長：石沢友男，事務局長：上田義信

関東支部　会長：亀谷勉，幹事長：各務俊彦

三重県支部　事務局長：東原信幸

愛媛県支部　副会長：横山政市
（会長転出のため未定）

九州支部　会長：深田泰三，事務局長：高木信紘

もし，既存の支部会がありましたら事務局にご連絡下さい。

みなさんの地域に支部会を作って下さい！

帯広畜産大学同窓会新役員紹介

会　長：岸上正治 獣医S18卒
副会長：安田勲 総農S31卒，佐藤邦忠 獣医S37卒
事務局長：山田純三 獣医S39卒
会　計：石橋憲一 農化S42卒，松田清明 総農S41卒
名簿編集責任者：三上正幸 酪農S40卒
監　事：笹川琢夫 獣医S22卒，有賀秀子 酪農S31卒

事務局からのお願い

１）組織の強化のために各県で支部会を結成していただきますようお願い申し上げます。役員名，連絡先等を事務局までご連絡下さい。

２）各クラスの代表決定いただき，代表者名，連絡先等を事務局までご連絡下さい。

３）もし，同窓会員の方に不幸がありましたら，同窓会から弔電を送らせていただきますので，事務局へご連絡下さい。

（連絡先：電話，畜大 0155-48-5111 内線 271 山田純三，335 石橋憲一，338 松田清明，479 佐藤邦忠）

４）**転勤および転居の際は，必ず同窓会事務局にもご連絡下さい。**これは同窓会員の義務として会則の第６条にもうたわれておりますので宜しくお願いします。

５）同窓会への要望を事務局までお寄せ下さい。

以上宜しくご協力の程をお願い致します。

皆さんと母校を結ぶ同窓会です！

本同窓会の会則が先の総会で変更されましたので以下に新しい会則を掲載致します。

帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定
平成5年10月16日改訂

第1章　総　　則

第1条　本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
第2条　本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
第3条　本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1．同窓会報（名簿）の発行
2．会員相互の連絡と本学関連情報誌の発行
3．帯広畜産大学の後援
4．その他本会の目的を達成するための必要な事業
第4条　本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

第2章　会　　員

第5条　本会の会員は次の資格を備うるものとする。
1．帯広畜産大学及びその前身の卒業生
2．帯広畜産大学畜産学専攻科、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
3．その他運営委員会で認めたもの
第6条　会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に通知しなければならない。
第7条　本会は特別会員を置くことができる。特別会員は運営委員会において推薦する。但し会務に関係なきものとする。

第3章　役　　員

第8条　本会は次の役員を置く。会長　1名，副会長　2名，事務局長　1名，会計　2名，監事　2名，運営委員　各学科等から若干名及び各支部代表者
第9条　会長及び副会長は運営委員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。事務局長及び監事は運営委員会において会員中より選出する。役員の任期は一期2年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないことを原則とする。
第10条　会長は本会を代表し会務を統理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会務を代行する。
第11条　事務局長は会務を担当する。
第12条　監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
第13条　運営委員は各学科等からの推薦による。但し推薦がない場合には会長の委嘱による。
第14条　運営委員会は会長、副会長、事務局長、会計及び運営委員で組織し、重要な会務を審議する。
第15条　運営委員会は次の事項を審議する。
1．同窓会会報の発行
2．予算及び決算
3．会費の変更
4．支部の設置
5．重要な財産の処分
6．その他の重要な事項
第16条　運営委員会は会長が召集しその議長となる。運営委員3分の2以上より会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は運営委員会を招集しなければならない。運営委員会は構成員の5分の1以上出席しなければ開会することができない。
第17条　運営委員会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。

第4章　総　　会

第18条　総会は通常総会と臨時総会とする。臨時総会は運営委員会において必要と認めたとき、または10分の1以上の会員より会議の目的事項を示して請求があったときこれを開くこととする。
第19条　総会は会長が招集し、その議長は会員中より選出する。
第20条　次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1．会則の変更
2．役員人事
3．財産目録
第21条　総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。

第5章　資産及び会計

第22条　本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。
第23条　本会の重要な財産を処分するには、運営委員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
第24条　会員は終身会費として入学と同時に10,000円を納めなければならない。但し、1年以内の分納を妨げない。
第25条　本会の資産は運営委員会が管理する。
第26条　本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章　支　　部

第27条　本会はその目的を達成するために、必要があるときは支部を設けることができる。
第28条　支部を設置しようとする者は、その代表者から本会に届け出なければならない。
第29条　支部は支部会において、特別の定めをすることができる。

付　則　この会則は平成5年10月1日から施行する。

帯広畜産大学同窓会収支決算報告

（平成4年7月1日～平成5年6月30日）

収　入（円）		支　出（円）	
前年度繰越金	7,927,845	同窓会報印刷代	2,110,470
同窓会報売上げ代	38,000	案内状, 封筒印刷代	234,499
50周年記念誌売上げ代	71,000	郵送代	538,656
利子	31,975	人件費	167,400
新入生同窓会賛助金		振替手数料	1,742
特別会計より	1,520,880	事務費	16,671
同窓会報販売		花輪代	31,9300
特別会計より	4,828,540	祝金	10,000
合計	14,418,240		3,111,368
繰越金			11,306,872

繰越金内訳：定額貯金 3,400,000円、貯蓄型養老保険 2,300,402円
郵便貯金 741,573円、郵便振替 4,848,540円
現金 16,357円

特別会計（新入生同窓会賛助金）収支決算報告

（平成5年4月1日～平成5年6月30日）

収　入	（円）	支　出	（円）
送金額1)	1,530,000	振替手数料	9,120
		同窓会通常会計へ	1,520,880
合計	1,530,000		1,530,000
繰越金			0

1）、新入生153人分

特別会計（同窓会報販売）収支決算報告

（平成5年5月22日～平成5年6月30日）

収　入	（円）	支　出	（円）
送金額1)	4,924,500	振替手数料	95,960
		同窓会通常会計へ	4,828,540
合計	4,924,500		4,924,500
繰越金			0

1）、申込み人数 1，598人、1，601冊

尚，予算は紙面の関係で省略させていただきました。お許し下さい。